

2019年度 京都市立銅駄美術工芸高等学校 学校経営方針

平成31年(2019)4月1日

校長 吉田 功

2018年3月に告示された新しい高等学校学習指導要領は、2022年度からの年次進行実施を前に、今年度（2019）から先行実施が始まる。今回の改訂にあたっては、中央教育審議会の審議のまとめの「2030年の社会と子供たちの未来」という節の中で、AIが発達し予測不可能な時代に生きる子どもたちが、「直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していく」ことができるよう、学びの転換が示されたことに注視しなければならない。そして今、高大接続改革が本格的に進み出し、高等学校や大学の教育改革とともに大学共通テストをはじめとする入試改革への対応が喫緊の課題となっている。

このような情勢の中で本校は、生徒が「観ること」「感じること」「考えること」「表現すること」を重要な学びとし、美術専門科目はもちろん普通教科の科目、総合的な探究の時間、特別活動などにおいて豊かな教育実践を進めているところである。2023年の学校移転、「新美工」のスタートをふまえた学校ビジョンのもと、学校を取り巻く情勢を的確に捉えながら、「本校が美術専門高校であること」と「本校のような美術専門高校があること」の意義を深く認識し、学校力の一層の向上に努めて、本校の教育への生徒、保護者、市民の信頼と期待に応えていかなければならない。

そのため、今年度の学校経営方針と指導の重点を以下のように示す。

＜学校経営方針の柱＞ 信頼と共感に基づく組織作り 対話と協働による弛まぬ実践

＜学校経営の基本方針＞

- (1) 4年後の学校移転を見据えたビジョンのもと、学校力向上のため、進取果敢に教育実践を進める。
- (2)すべての教職員の個人の力を、組織的な学校力として機能させる“チーム学校”体制を確立する。
- (3)すべての教職員が学校運営に参画する意識を高め、課題を共有した校務の連携・協働をはかる。
- (4)学校のあらゆる教育活動を、ねらいと目標を明確にして実践し、評価をふまえた改善を行う。
- (5)教職員の生徒と関わる時間をふやし、教職員の心身をまもるために、働き方改革を進める。

＜指導を進めるまでの重点＞

- (1) 生徒の学びのモチベーションを高め、ねらいと目標を明確にした「わかる授業」「主体的、対話的で深い学び」を計画的に実践し、学力と実技力向上のための授業改善、学びの転換を進める。
- (2) 校内 WiFi 環境、BYOD (Bring Your Own Device : 生徒がタブレットを学びの教具として持参) の環境を活かし、教育実践の中で効果的なICT機器の活用を進める。
- (3) 美術工芸の専門分野の学びと、普通教科や総合的な探究の時間、特別活動などの学びとを、ともに重視し、社会とつながる多様で多角的な視点をもった学びにより普遍的な総合力を育成する。
- (4) 日常的に生徒をよく観察し、生徒のニーズや課題を的確に掌握する。気になる生徒、困りを抱えた生徒、課題のある生徒の情報を共有し、時機を逸することのない組織的な対応を行う。
- (5) 生徒の自主性・自律性を高めるとともに、生徒自身が自己の心身をコントロールする力、他者とコミュニケーションをとりながら協働して課題解決に取り組む力を育成する。
- (6) 自他を尊重する意識、多様性を認め合う姿勢、ルールやモラルを疎かにしない態度を育成する。いじめや暴力など人権を傷つける行為を絶対に許さない指導を進め、人権文化を高める。